

I. マタイ第 16 章で、召会を建造する道と建造の敵が啓示されています:	A. キリスト、生ける神の子は、岩としてのご自身の上に、ペテロのような造り変えられた人である石をもって、召会を建造します。 マタイ 16:16 シモン・ペテロが答えて言った、「あなたはキリスト、生ける神の子です」。17 すると、イエスは彼に答えて言われた、「バルヨナ・シモン、あなたは幸いである。あなたにこのことを啓示したのは血肉ではなく、天におられる私の父だからである。18 そこで私もあなたに言う。あなたはペテロである。私はこの岩の上に、私の召会を建てる。ハデス[陰府]の門も、それに勝つことはない。		
	B. ハデス[陰府]の門、すなわちサタンの暗やみの権威あるいは力は、召会を攻撃して、主が召会を建造することを妨げます。		
	C. 召会を建造するために、主は死を経過し、復活の中へと入らなければなりませんでした:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 召会はキリストの死と復活を通して生み出されました。</li> <li>2. 召会を建造する道は、十字架につけられ復活させられることです。</li> <li>3. 召会は、十字架を通しての復活の領域においてのみ存在し、建造されます。</li> </ol>	
	D. ペテロは、良い心をもって、主をいさめ、主がエルサレムに行って十字架につけられることを阻止しようとした:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主が召会を建造することを妨げようとしたのは、ペテロではなく、ハデス[陰府]の門の一つ、すなわちペテロの自己の門を通して出て来たサタンでした。 マタイ 16:23 しかし、イエスは振り返ってペテロに言われた、「サタンよ、私から退け！あなたは私をつまずかせるものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っているからだ」。</li> <li>2. 自己、思い、魂の命は、サタンがそれを通して出て来て、召会を攻撃し破壊する主要な門です。 マタイ 16:24 それから、イエスは弟子たちに言われた、「だれでも私について来たいなら、自分を否み、自分の十字架を負い、私に従って来なさい。25 なぜなら、すべて自分の魂の命を救おうとする者はそれを失い、すべて私のために自分の魂の命を失う者はそれを見いだすからである。26 人が全世界を手に入れても、自分の魂の命を失ったなら、何の益があるだろうか？人は自分の魂の命と引き換えに、何を与えることができるだろうか？</li> </ol>	
II. 召会の建造は、三つの鍵を活用することを通して、ハデス[陰府]の門を閉じることにかかっています:	A. 私たちは自己を否むという鍵を活用することを学ぶ必要があります:	1. 肉は、罪(サタンの性質)によって腐敗させられた、創造された体です。自己は、創造された魂にサタンのような悪い、サタンの思いを加えたものです。	
		2. サタンの思い、思想が人の魂の中へと注入されたとき、人の魂は自己、すなわちサタンの具体化となりました:	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. エバが善悪知識の木の実を彼女の体の中へと取り入れる前に、サタンの思想、思いが彼女の魂の中へと注入されました。</li> <li>b. エバの思いがサタンの思想によって毒された後、彼女の感情はかき立てられ、そして彼女は意志を活用して、知識の木の実から食べることを決定しました。</li> <li>c. この時には、魂のあらゆる部分(思い、感情、意志)は毒されていました。</li> <li>d. 自己は魂の命の具体化であり、魂の命は思いを通して表現されます。ですから、自己、魂の命、思いは三一です。</li> <li>e. この三つの背後にはサタンがおり、サタンは自己を操作して召会を破壊します。</li> </ol>
		3. 自己は、神からの独立を宣言する魂です:	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. 主が重んじるのは、私たちが何を行なうかではありません。そうではなく、主が重んじるのは、私たちが彼に依り頼むことです。 (1) 私たちは神に依り頼むだけでなく、からだにも、兄弟姉妹にも依り頼むべきです。 出 17:11 モーセが手を挙げていると、イスラエルが優勢になり、手を下ろしていると、アマレクが優勢になった。12 しかし、モーセの手が重くなったので、アロンとホルが一つの石を取り、それをモーセの下に置くと、彼はその上に座った。そして彼らは、一人はこちら側で、一人はあちら側で、モーセの手を支えた。それで彼の手は、日が沈むまでしっかりしていた。 13 ヨシュアは、アマレクと彼の民を剣の刃で打ち破った。 (2) 主とからだは一です。ですから、私たちはからだに依り頼んでいるなら、主にも依り頼んでいます。私たちはからだから独立しているなら、自然に主からも独立しています。 (3) 私たちが依り頼んでいるとき、自己は消え去り、私たちは自己ではなく主の臨在を持ち、平安に満ちます。 (4) 自己が徹底的に十字架によって対処されたときはじめて、私たちはキリストのからだの実際に触れ、からだを認識することができるようになります。</li> </ol>
		4. 以下は、自己のいくつかの表現です:	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. 自己には、野心、高ぶり、自己を高く上げることがあります。マタイ 20:27 あなたがたの間で第一になりたい者は、あなたがたの奴隷となりなさい。ピリピ 2:3 何事も、自分本位の野心から、また虚栄からするのではなく、むしろ謙遜な思いで、互いに他の人を自分自身よりすぐれていると思いなさい。</li> <li>b. 自己には、自分の義、自己義認があり、人を暴露し、批判し、罪定めします。</li> <li>c. 自己には、内省と自分を軽んじることがあります。</li> </ol>

II. 召会の建造は、三つの鍵を活用することを通して、ハデス[陰府]の門を閉じるにかかっています:	A. 私たちは自己を否むという鍵を活用することを学ぶ必要があります:	4. 以下は、自己のいくつかの表現です:	d. 私たちは自己の中にいるとき、召会、導いている人、聖徒たちによって感情を害されることがあり得ます。
			e. 自己には、失望と落胆があります。
			f. 自己には、自己愛、自己保身、自己追求、自己憐憫があります。
			g. 自己には、つぶやきと議論があります。
			h. 自己には、天然の味わいと好みに基づいた天然の感情(友情)があります。
			i. 自己には、意見に固執し、異議を唱えるという事柄があります。
	5. 私たちが自己を否むという鍵を活用して自己を閉じ込めるなら、つまずくことはあり得ないでしょう。つまずかない者は幸いです:	a. もし私たちがつまずくことがあり得るなら、それは私たちが自己に満ちていることの証拠です。	
		b. 私の自己が閉じ込められているなら、あなたが私に何を行なっても、あるいは私をどのように扱っても、私はつまずかないでしょう。	
	6. 私たちは自己を否むという鍵を活用して、あらゆる状況において自己を閉じ込めることを学ぶ必要があります:	a. 状況があなたにとって順境であっても逆境であっても、兄弟たちがあなたを愛しても憎んでも、あなたは自己を閉じ込めなければなりません。	
		b. 自己が閉じ込められているなら、召会は建造されません。	
	B. 私たちは十字架を負うという鍵を活用することを学ぶ必要があります:	1. 十字架を負うことはただ、神のみこころを負うことを意味します。十字架は神のみこころです: <u>マタイ 26:39</u> そして彼は少し進んで、ひれ伏して、祈って言われた、「わが父よ、できることなら、この杯を私から過ぎ去らせてください。しかし、私の意のままにはではなく、あなたの意のままになさってください」。	a. 主イエスは犯罪者のように十字架に行くことを強いられたのではありません。主は進んで十字架に行きました。なぜなら、十字架は神のみこころであったからです。
			b. 主イエスが進んで十字架につけられたのは、彼の死を通して、彼の命が解き放たれ、召会を生み出し建造するためでした。
c. 十字架は主にとって大きな苦難でしたが、彼は苦難を顧みず、神の定められた御旨を完成することを顧みました。			
2. 「自分の十字架を負い…なさい」は、私たちが強いられて十字架を担うのではなく、進んで十字架を負うことを意味します:		a. 私たちの夫、妻、子供たちは神のみこころであり、それゆえ私たちの十字架です。	
		b. その一つの召会は神のみこころであり、その召会の中のあらゆる兄弟姉妹は神のみこころです。ですから、十字架を担うことは、その召会を担うこと、またすべての聖徒たちを担って、私たちが真の一を持つことです。	
		a. 私たちは主の十字架を通して神聖な命を受けました。今や、私たちはこの命の中で建造されるために、進んで、また喜んで十字架を負う必要があります。	
3. 私たちは自分の十字架を負うだけでなく、自分の十字架を担い続ける必要があります。すなわち、十字架にとどまり、自分の古い人を日ごとに十字架の終結の下にとどめる必要があります:	b. 私たちは自分の味わい、感覚、意識を顧慮すべきではありません。そうではなく、私たちは神のみこころだけを、すなわち、私たちが真の一を持つことだけを顧慮すべきです。		
C. 私たちは魂の命を失うという鍵を活用することを学ぶ必要があります:	1. 魂の命を救うとは、魂にその享受を得させることによって、自己を喜ばせることです。魂の命を失うとは、魂の享受を失うことです:	a. 神は人を創造して、享受を必要とする魂とならせました。	
		b. 人の霊の中へと神を受け入れ、魂を通して神を表現することは、人の喜びまた娯楽であるべきです。	
		c. 主イエスは、この時代に彼の魂の享受を失いました。それは、彼が来たるべき時代に彼の魂の命を見いだすためでした。私たちも同じことを行なわなければなりません。	
		d. もし私たちがこの時代に自分の魂の命を救うなら、来たるべき時代にそれを失います。しかし、この時代に自分の魂の命を失うなら、来たるべき時代にそれを見いだします。	
		e. 私たちは主イエスを愛し、自分の魂の命を憎み、否む必要があり、死に至るまでも、自分の魂の命を愛さないようにする必要があります。	
	2. 私たちが主のため、召会のため、すべての聖徒のために、自分の現在の魂の享受をすべて進んで失うなら、他の人は私たちによって養われ、私たちを通して建造されます。これは苦難ではなく、喜びです。		
	3. 私たちが今、主のために自分の魂の命を失うなら、主の再来の時、私たちはそれを救い、そしてそれは救われ、得られます。 <u>ヘブル 10:39</u> しかし、私たちは、退いて崩壊に至る者ではなく、信仰を持って魂を獲得するに至る者です。		
	4. 王国の実現の時に、王の喜びにあずかって地を支配するという王国の褒賞は、私たちがこの時代に自分の魂の命を救うか、それとも失うかにかかっています。		
	5. 主の出現の時、ある信者たちは主の喜びの中に入り、ある信者たちは泣き叫んだり歯がみしたりして苦しみます。主の喜びの中に入ることは、私たちの魂の救いです。		

**経験:**①門はマタイによる福音書第16章18節で述べられており、鍵は19節で述べられています。敵には門がありますが、私たちには鍵があります。…敵の門は鍵よりもはるかに大きいのですが、それにもかかわらず、門は鍵の管理の下にあります。…21節から26節は門を暴露しているだけではなく、鍵も啓示しています。

**第一の鍵**は、自己を否むことです。自己は開いた門ですが、自己を否むことは、それを閉じる鍵です。**第二の鍵**は、十字架を負うことです。これは、十字架が自己、魂、思いを閉じる鍵であることを意味します。**第三の鍵**は、魂を失うことです。ですから、この三つの鍵は、自己を否むこと、十字架を負うこと、魂を失うことです。日ごとに私たちはこれらの鍵を用いる必要があります。…自己、魂、思いは三つの極めて重要な、主観的な門です。これらの主観的な門が閉じられるなら、どんな支配や勢力も入って来ることはできないでしょう。

**結婚生活編:**あなたが結婚生活を建て上げるために、夫は自分の妻を愛し、妻は自分の夫に服従するべきです。夫が妻を愛するとは、植物に毎日水をやるように、毎日妻に愛情を伴う賛同や称賛を注ぐことです。夫が水を注げば、妻の多くの問題はなくなります。また、妻は自分の夫を評価し、サポートしてあげるべきです。しかし、これらのことを実際に実行しようとする、自己、魂、思いの三重のサタンが立ち上がり、相互の誤解、不満、いらだちを掻き立てます。しかし、主に感謝します。救われたあなたには、敵の門を管理するための鍵があります。この鍵は、i) 自己を否むこと、ii) 十字架を負うこと、iii) 魂の命を失うことです。結婚生活を建て上げることは、あなたが毎日少しずつこの3つの鍵を使い、自己、魂、思いを正しい管理の下に置くことです。このことを信仰と恵みによって忠実に実行するなら、あなたは結婚生活を建て上げることができ、配偶者から大きな助けを得ていることに気づくでしょう。ハレルヤ!

②自己は独立しているものである、自己はからだを建造することによって最大の問題です。私たちは神に依り頼むだけでなく、からだにも、兄弟姉妹にも依り頼むべきです。私たちは兄弟姉妹から独立しているときはいつでも、自己の中におり、独立した魂の中にいます。今日私たちがからだから独立していることは、神から独立していることに等しいのです。これは教理の事柄ではなく、経験の事柄です。あなたは自分の経験を調べるなら、あなたが兄弟姉妹から独立していた時、神からも独立していたという感覚を持ったことを認識するでしょう。…主の臨在を持つことは、あなたがからだに依り頼んでおり、からだと正しい関係にあるかどうかにかかっています。あなたはからだと正しい関係にあるなら、至る所で主の臨在を持つでしょう。しかし、あなたはからだと正しい関係がないなら、どこにいても、主の臨在を持たないでしょう。

**スクール・ライフ(中学生)編:**スクール・ライフが祝福されるために、あなたは主の臨在をもって学校に行く必要があります。経験的に言って、主の臨在は、あなたがからだの生活を、からだに依り頼んでいるかどうかにかかっています。どの個人も、サタンに対抗することはできませんが、からだはサタンに打ち勝ちます。あなたは必ずからだの生活を送ってください。そのために、i) 毎朝、一週間に7回の朝、兄弟姉妹と共に御言葉を祈り読みし、スクール・ライフのために祈ってください。ii) あなた自身のための家庭集会を毎週15~30分持ってください。iii) 土曜日には青少年集会に参加して、共に主を享受してください。iv) 主日の午前中を主のために聖別して、青少年の主日集会に参加してください。あなたがこのようなからだの生活を実行するな

ら、自然に主の臨在があなたに豊かになるようになります。主の臨在はあらゆる誘惑や耐えられないような試練からあなたを守ります。例えば、サタンの扇動による墮落したクラスメイトからの陰湿ないじめや、墮落した罪の誘惑から守られるために、あなたには主の臨在が必要です。多くの人は、このような状況の中で耐えられない試練に遭い極度に弱くなったり、誘惑に陥って墮落してしまいます。しかし主の臨在の保護に感謝します。からだの生活の中で、主の臨在を享受し、主に信頼して、祝福されたスクール・ライフを送ってください。アーメン!

③私たちは建造について大いに語るかもしれませんが、しかしながら、ある事が起こって私たちに触れるとき、自己が開きます。私たちはハデスに開いているので、ハデスからのもの、すなわちサタンが出て来ます。私たちはどれほど自己を否む鍵を用いて自己を閉じる必要があることでしょうか! 他の人たちによってつまづくことから守られる方法は、自己を否むことによって、自己を閉じ込めることです。つまづかない者は幸いです。…私の自己が閉じ込められているなら、あなたが私に何を行なっても、あるいは私をどのように扱っても、私はつまづかないでしょう。失望するのは、あなたが自己の中にいる証拠です。…自己が閉じ込められているなら、私たちは建造を持つことができます。あなたが自己を否む鍵を活用するなら、他の人たちはつまづくかもしれませんが、あなたはつまづかないでしょう。それどころか、あなたは建造されます。なぜなら、あなたの中の自己が閉じ込められているからです。私たちはみな自己を否むという優勢な鍵を用いて、自己、魂、思いを閉じる必要があります。そうでなければ、召会の建造は妨げられるでしょう。

**ビジネス・ライフ編:**ビジネス・ライフの重要な局面や、転職の局面などで、あなたは主によって正しく導かれる必要があります。しかし重要な局面になると、自己が出やすくなります。自己の門は、実際にはハデスの門であり、そこからサタンが出てくるのです。そしてサタンは、あなたの自己を用いて、あなたを間違った方向に導きます。あなたは実際的にハデスの門を閉じる鍵である「自己を否む」を使って下さい。主の御名を呼び、恵みを取って、神から独立し高ぶった自己を否んでください。そうすればサタンは出て来ず、主の恵みはあなたを義の道に導くでしょう。

この事を実行するためにも、あなたは職場で様々な試練に遭う前に、毎朝、御言葉を祈り読みして、復興される必要があります。朝の時、体が疲れているので一日くらい祈り読みするより15分余分に寝ていた方がいいのではないかと考えて、毎朝の復興をサボってはいけません。その日、油断している時に、試練が来て自己の門が開かれることがないと言えてしまうのでしょうか? あなたが霊的に聖別された生活を送るために、Iテサロニケ5章は次のように言っています:

15 だれも人に対して悪をもって悪に報いることがないように気をつけ、互いに、またすべての人に対して、常に善を追い求めなさい。16 いつも喜んでいなさい。17 絶えず祈りなさい。18 あらゆることで感謝しなさい。なぜなら、これがあなたがたに対する、キリスト・イエスにある神のみこころだからです。19 その霊を消してはいけません。20 預言を軽んじてはいけません。

ビジネス・ライフの成功の秘訣は、自分の霊を活用し、絶えず祈り、喜びを維持し、あらゆることで感謝することで、自己を否むという鍵を用いてハデスの門を閉ざすことです。

516

試練の中での慰め — 主に信頼する

1 主に信らいするは 何とあまいこと、  
やくそくのうえに われ安そくする。

(復) イエス, イエス, 信頼する, その都度たしか;  
イエス, イエス, どうといイエス, 主は生けるかみ。

2 イエスにしん頼して, どうとい血を信じる;  
いやし, きよめる血, 単純にしんじる。

3 イエスにしん頼する, つみ, 自己を解く;  
歓喜, 安そく, いのち, めぐみを受ける。

4 イエスにしん頼する, 何たるよろこび!  
われは主とともに えい遠にいたる。

# 516

试炼中の安慰—信靠主

一 信靠耶稣何其甘甜, 抓祂话语作把握,  
安息在祂应许上面, 只知主曾如此说。  
耶稣、耶稣, 何等可靠, 我曾试祂多少次;  
耶稣、耶稣, 我的至宝, 祂是活神不误事。

二 信靠耶稣, 何其甘甜, 信祂宝血能洗净;  
信心简单, 血有效验, 疾病医治, 罪洗清。  
耶稣、耶稣, 何等可靠, 我曾试祂多少次;  
耶稣、耶稣, 我的至宝, 祂是活神不误事。

三 信靠耶稣, 真是甘甜, 救我远离罪与己;  
从祂接受无限恩典: 生命、喜乐和安息。  
耶稣、耶稣, 何等可靠, 我曾试祂多少次;  
耶稣、耶稣, 我的至宝, 祂是活神不误事。

四 何等喜乐, 我能信你, 至宝耶稣, 我救主!  
信你与我是在一起, 一直一起到永古。  
耶稣、耶稣, 何等可靠, 我曾试祂多少次;  
耶稣、耶稣, 我的至宝, 祂是活神不误事。

#568

Experience of Christ - Trusting Him

1 'Tis so sweet to trust in Jesus,  
Just to take Him at His word;  
Just to rest upon His promise;  
Just to know, Thus saith the Lord.

(C) Jesus, Jesus, how I trust Him,  
How I've proved Him o'er and o'er,  
Jesus, Jesus, Precious Jesus!  
O for grace to trust Him more.

2 O how sweet to trust in Jesus,  
Just to trust His cleansing blood;  
Just in simple faith to plunge me,  
'Neath the healing, cleansing flood.

3 Yes, 'tis sweet to trust in Jesus,  
Just from sin and self to cease;  
Just from Jesus simply taking  
Life, and rest, and joy, and peace.

4 I'm so glad I learned to trust Thee,  
Precious Jesus, Savior, Friend;  
And I know that Thou art with me,  
Wilt be with me to the end.